

「戦後復興期の産業政策 再考」

杉山 伸也

はじめに

「戦後改革」をめぐる連続性と非連続性／「戦時経済システム」源流論／
「傾斜生産」の定義と評価／「傾斜生産」の過大評価の2つ要因／
「日本石炭産業関連資料コレクション」

1 「傾斜生産」の構想と計画

吉田内閣成立と石炭小委員会／1947年度3000万トン出炭計画／
「石炭重点主義」／物資需給計画と経済安定本部／有沢広巳の見解

2 石炭と鉄鋼

鉄鋼業向配炭量と銑鉄・鋼材の石炭業向供給量／計画と実績

3 石炭業における資材・労働力・資金問題

(1) 出炭計画の策定と実施

出炭計画案の作成と日本石炭鉱業会／地区別出炭計画と石炭企業／
「重点主義」と「平等主義」

(2) 資材問題

坑内の荒廃と設備・機械の老朽化／資材不足／「現物化」

(3) 労働力問題

労働「民主化」政策／出炭能率の上昇／労働者の安定的確保と定着化／
労働組合の交渉力と会社の労働者優遇策／労務費シェアの上昇と経営悪化

(4) 資金問題

価格差補給金と復金融資／低炭価政策と賃金・資材の高騰／運転資金の
不足／高賃金と労働者増加による融資の拡大／炭価と生産費の乖離／
復金融資の拡大と累積赤字の増加／「企業三原則」

おわりに

表1 石炭・鉄鋼の相関関係(単位:1,000トン)

年度	石炭 生産量	鉄鋼業向け配炭量			鉄鉄 生産量	石炭業向け鉄鉄供給量			普通鋼鋼材		石炭業向け鋼材供給量	
		計画	実績	%		実績	%	生産量	計画	実績	%	
1946 I	4,952		396	8.0	58.7	1.4	2.4	75.0	23.0	16.2	21.6	
II	5,181		381	7.3	56.5	2.8	4.9	76.9	20.0	13.0	16.9	
III	6,011		356	5.9	47.2	1.9	4.1	85.7	13.0	17.6	20.5	
IV	6,379	525	421	6.6	55.6	1.8	3.3	88.8	25.5	22.8	25.7	
小計	22,523	1,524	1,554	6.9	218.0	7.9	3.6	326.5	80.3	69.6	21.3	
1947 I	6,326	613	543	8.6	93.1	1.7	1.8	117.8	21.0	17.2	14.6	
II	6,642	567	553	8.3	100.2	2.3	2.3	146.8	21.0	6.5	4.4	
III	7,888	589	536	6.8	98.7	2.3	2.4	134.3	22.5	12.3	9.2	
IV	8,480	651	641	7.6	105.1	1.4	1.4	178.8	22.5	19.6	11.0	
小計	29,335	2,420	2,272	7.7	397.0	7.8	2.0	577.6	86.0	55.6	9.6	
1948 I	7,999	835	820	10.3	37.8	1.4	3.6	223.6	23.2	15.7	7.0	
II	8,124	862	860	10.6	195.1	1.5	0.7	288.7	26.0	29.5	10.2	
III	9,124	800	1,067	11.7	239.7	1.6	0.7	331.3	25.1	24.8	7.5	
IV	9,547	829	1,114	11.7	278.1	1.5	0.5	381.9	27.4	27.2	7.1	
小計	34,793	3,326	3,861	11.1	750.6	5.9	0.8	1,225.4	101.7	97.2	7.9	

資料:『石炭労働年鑑』1947年、1948年、1949年;日本鉄鋼連盟『戦後鉄鋼史』;『石炭統計総観』1950年;復興金融庫『復合融資の回顧、北海道立労働科学研究所『北海道炭礦統計資料集』より作成。

表2 対石炭鉱業復合融資借入額内訳および残高(単位:100万円)

年度	一般設備資金	炭住資金	運転資金(含赤字融資)	合計
1946年度上期	—	—	350	350
下期	974	197	1,455	2,627
1947年度上期	1,862	4,085	4,518	10,466
下期	3,971	3,358	6,215	13,544
1948年度上期	6,181	7,847	7,262	21,290
下期	4,708	—	—	4,828
合計	17,696	15,488	19,921	53,105
1949年12月末残高	17,284	15,086	2,729	35,100

資料:日本石炭協会『石炭統計総観』1950年、313頁、大手炭鉱19社と中小炭鉱の合計。

